

花鳥風月・短歌

網戸にし朝の風入れ気持よし

今日も良き日であります様に

加藤 イサ子

台風後青空に浮く入道雲

見事な自然目に焼きつけり

一色 ノブ

夕闇の妖しやの光追いかける

老夫婦ランタン掲げ歩きおり

心地よい学童からの挨拶や

二十日足らずで今年梅雨明ける

うたた寝す一刻の有り酒涙雨

気俣に過ごす後期高齢

小林 泰子

行事食夏越しごはんをいただきて

厄を払ひて息災願ふ

徳永 誠一

初恋の淡き想出懐かしく

忘れ花となりて安らぐ

入梅入り身体ついていきかねる

今日頃

生かされて八十路の坂を健やかに

神のみ心有り難く受く

炎暑なる蝉のさみどり初々し

鳴きて七日の尊き命

塗堀 良子

ひたすらにウォーキングや目指したる

明石海峡大橋白亜

石井 トシ子

早苗田に良き風吹きて観光の

棚田の風車回り夏来る

曾我部

福石

淋しさと気楽を往き来するひとり

成り行き任せ坂登りゆく

三谷

福美